



『個性』～差異を認め合い、尊重し合える社会の実現を目指して～

大塚 悠未

バジュ・クルン、チャイナドレス、サリー、交流先の学校ではそれぞれの民族衣装を身に纏った生徒が出迎えてくれた。多民族国家“マレーシア”には、マレー系、中華系、インド系、様々な民族が共存している。一見、一緒の空間にいることすらなんだか不思議に思える。肌の色も信仰する宗教も違う生徒が1つの校舎で共に笑い合う姿、なんだか新鮮だった。民族や宗教の問題以前に、彼らは皆、同じ学校の生徒であることを教えてくれているようだった。

マレーシアの街中にはマレー語や中国語など複数の言語が入り混じり、様々な文化が溢れている。とっても面白い街だ。私たちは自分たちを基準としたステレオタイプに囚われ、自分たちの習慣や文化が違うことに違和感を覚えたり、ときにはそれを排除しようとする。“つまらない国”幼い頃に日本に来たことがあるというマレーシアの方の日本の第一印象を聞いて、私は思いがけない言葉に驚いた。確かに、マレーシアの方からしてみればそうかもしれない。日本での景色は、マレーシアの方にとっては当たり前ではない。そんなことを改めて実感させられた。

世界には今だ民族差別や紛争が存在する。そんな中、マレーシアで異なる民族が尊重し合い共存しているのを目にし、とても温かい気持ちになった。世界中がこうして差異を認め合い、尊重し合える社会になれば、もっと平和で幸せで楽しい未来を築けるのではないだろうか。そう、『個性』を活かして。